

今月のテーマ

住みよかプロジェクト



市長の恋と恋

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

最初に取り組んだのは、若い世帯向けの市営住宅を増やすことです。建て替えを控えているために計画的に空き室にしている部屋(政策空き家)を使って、地域に若者が住んでもらうための社会実験を実施中です。また、学生や子育て世帯が住みやすい部屋に改造(リノベーション)して提供することとしてお

長崎市では、若い世代に選ばれる魅力的なまちを目指して、「働く」「住む」「楽しむ」「挑戦する」という4つの面の向上を図っていますが、住みよかプロジェクトは、その中で「住む」環境を良くするためのプロジェクトです。

「新産業の種を育てるプロジェクト」「まちづくりプロジェクト」などいろいろなプロジェクトがあるのですが、その一つが昨年からスタートした「住みよかプロジェクト」です。

長崎のまちづくりを進めるのに、特に重点的に、そして集中的に取り組むを進めたいテーマに関しては、プロジェクトとして取り組んでいます。

- 地場企業主体で住宅関連の地域課題の解決に取り組む仕組みづくり
- 中心部などで若者や子育て世帯向けの賃貸住宅の供給
- 空き家や空き地の再利用による戸建住宅の供給
- 空き家を魅力的にリノベーションして供給
- 若い世代向けの情報発信

次々の取り組みを認定しています。

今までの取り組みを認定して、市営住宅の政策空き家を活用するというアイデア、学生たちに実験的に住んでもらうというアイデア、地場企業が集まって地域課題の解決に取り組むというアイデア。どれも柔らかい発想です。でも一番柔らかい発想は、地域課題を資源と捉える発想です。

「住みよかプロジェクト協力認定事業」として認定することになりました。



市営住宅の政策空き家を改修する学生たちと社会実験

り、今年度は子育て世帯向け住宅20室、新規就労者・移住者向け住宅20室程度の入居者を募集予定です。(24ページ参照)

「起業家支援のシェアハウス文字を読むだけでは少しイメージしにくいかもしれませんが、要するに、若い世代が望む住宅を提供するために、いろいろな人たちがそれぞれ得意分野を生かして協力しながら取り組んでいるのです。」

私はこのプロジェクトに、未来につながる可能性を感じます。それは、これまでとは違う発想がいくつも含まれているからです。

市営住宅の政策空き家を活用するというアイデア、学生たちに実験的に住んでもらうというアイデア、地場企業が集まって地域課題の解決に取り組むというアイデア。どれも柔らかい発想です。でも一番柔らかい発想は、地域課題を資源と捉える発想です。

「起業家支援のシェアハウス文字を読むだけでは少しイメージしにくいかもしれませんが、要するに、若い世代が望む住宅を提供するために、いろいろな人たちがそれぞれ得意分野を生かして協力しながら取り組んでいるのです。」



【お越しの際は公共交通機関をご利用下さい】

見晴らしがよく安心感がある広場には、よちよち歩きのお子さんも遊べる遊具が充実し、木陰にはゆつくり過ごせるベンチがあるなど、地域の憩いの場所になっています。

浦上天主堂すぐ前の道路下にある天主公園。昭和26年に開設したこの公園は、5年ほど前から、地域の方々と公園を利用している子どもたちの意見や専門家などの助言をもとに再整備を行い、今年3月にリニューアルオープンしました。



生まれ変わった
天主公園